

第 6 章

ラオスにおけるベトナム仏教寺院

大野 美紀子・菊池 陽子

1. ラオスにおけるベトナム仏教寺院

現在確認されているベトナム仏教寺院及び関連施設（神祠・亭・越僑会館等は下記のリストの通りである。ベトナム仏教寺院以外に、神祠・同郷会館も含めている。

ラオスでは、上座仏教系寺院を統括する組織は存在しているものの、それ以外の宗教施設に関する統計等の情報が公開されていないため、伝聞に基づき現地調査を行った対象を挙げている。公式情報を欠くため、正式名称が不明・通称のものも含まれている。

また、仏寺以外に神祠・ベトナム人協会同郷会館等においても、神仏への礼拝・供養儀礼や戦没兵士の慰霊・顕彰が行われることから、それらの宗教施設・会館等も下記のリストに含めている。

表 1 ラオスにおけるベトナム仏教寺院等の名称・所在地

No	Vietnamese name	Lao name	Japanese Name	Location
1	Chùa Phật Tích	ັດພຣະບາທ	伏跡寺	Luang Prabang
2	Chùa Kim Sơn		金山寺	Pakse
3	Hội Người Việt Nam Tỉnh Champasak	ສະມາຄົມຫວຽດນາມແຂວງຈຳປາສັກ	チャムバサック県ベトナム人会	Pakse
4	Chùa Thang Ngiem	ັດຕຣາງງຽມ	莊嚴寺	Pakse
5	Mình Đức Dien? Đình-Lăng	ຫໍ້ ຫຽດນາມ	明德殿	Pakse
6	Chùa Thanh Quang		清光寺	Pakse
7	Chùa Long Vân	ັດລອງເວີນ	龍雲寺	Pakse
8	Chùa Diệu Giác	ັດຢືງວຢາກ	妙覺寺	Savannakhet
9	Chùa Bảo Quang	ັດບາວກວາງ	宝光寺	Savannakhet
10	Hội Việt Kiều SAVANNAKHET	ສະໂມສອນໂຮ່ງບ່າງ / ສະໂມສອນໂຮ່ງບ່າງ	サワンナケート越僑会	Savannakhet
11	Chùa Pháp Hóa	ັດພາບຮວາ	法華寺	Xeno, Savannakhet Province
12	Tỉnh Kham Muon Hội Người Việt Nam Plan Oon Xiengvang	ສະມາຄົມຫວຽດນາມສາຂາຊຽງຫວາງ	カムムアン県シエンワーン支部 ベトナム人会	Shiengwang Village, Khammouang Province
13	Chùa Xieng Vàng	ັດຊຽງຫວາງ	シエンワーン寺（通称？）	Shiengwang Village, Khammouang Province
14	Nghĩa Trạng Xieng Vang		シエンワーン戦没兵士記念碑	Shiengwang Village, Khammouang Province
15	Hội Người Việt Nam Tỉnh Kham Muon	ສະມາຄົມຫວຽດນາມແຂວງຄຳມ່ວນ	カムムアン県越人会	Thakhek, Khammouang Province
16	Chùa Bồ Đề	ັດໂບ່ເຕີ	菩提寺	Thakhek, Khammouang Province
17	Chùa Phật Tích	ັດເພີຕິກ	佛蹟寺	Vientiane
18	Đền thờ Đức thánh Trần Hưng Đạo	ັດເຈີນຮຶງດາວ, ສານເທບເຈີນຮຶງດາວ	陳興道聖徳祀殿	Vientiane
19	Chùa Bang Long	ັດບາງລອງ	鳳龍寺	Vientiane
20	Hội Người Việt Nam Thủ đô Vieng Chan	ສະມາຄົມຊາວຫວຽດນາມນະຄອນຫຼວງວຽງຈັນ	首都ビエンチャンベトナム人会	Vientiane
21	No Name	ຫໍ້ບ້ານຍວນ	ニュアン村お堂	Xieng Khouang
22	Đền Cầm Đồng Dân	ສິນກຳດົງດຳນ	カム・ドン・ザン殿（講堂）	Xieng Khouang

2. 上座部仏教圏におけるベトナム仏教寺院の在り方：ラオス Vs. タイの比較

ラオスにおけるベトナム仏教寺院等については調査途上であるが、同国と同じく東南アジア大陸部において上座部仏教が優勢と見られる隣国タイと比較すると、中国系大乘仏教寺院の一派であるベトナム仏教寺院の在り方には、明確な相違が認められる。

1) 法統の継続性

ラオスでは、本国との直接的・継続的な交流が維持され、ベトナム仏寺がインドシナ戦間期から継続的に存続している。すなわち、僧侶がベトナムから直接派遣される、あるいはベトナム出身僧侶からラオス生まれの越僑第二世代・第三世代僧侶へと、法統が直接継承されている。読誦經典もベトナム語によって行われる。また、本国ベトナムから寺院改修・布施などの寄付金が流入している。一方、タイでは、冷戦期・後におけるベトナム-タイ間政治関係の緊張や越僑のタイ国外流出によって、ベトナムとの交流関係が途絶した。その間に、安南派寺院では、タイ国内中国系大乘仏教寺院から僧侶を補填するなどで寺院を維持し、經典読誦・儀式次第など実質的な「中国化」が進行した。

2) 比丘尼の存在

ラオスのベトナム仏教寺院には比丘尼が存在する事例が確認されるに対し、タイの安南派寺院では比丘尼が不在である。

事例：ビエンチャン・サワンナケートの寺院では、先代住職が男性僧侶であったのに対し、次代住職は尼僧が務めている。また、男性僧侶と尼僧が同一寺院に居住し、寺院運営にあたっている例も見られた(2025.4)。

3) ベトナムとの関係

ラオスでは、ベトナムからラオス側仏寺へ僧侶の派遣、仏教会・ベトナム仏教信者団体による寄付・布施が寺院改修・越僑福祉に充当されている例が散見された。

事例：ビエンチャンでは、南部ホーチミン市から『Giác Ngộ 覚悟』新聞が主催した信者団体がラオス観光を兼ねた寺院への寄付イベントを開催(2025.4)、セーノーの無住寺に中部フエから僧侶が盂蘭盆を主催するために訪問する例(2023.8)など。

タイでは、ベトナム仏教会から働きかけての安南派との相互交流やタイ在住ベトナム人による寄進が見られるものの、法統の継承を目的とするベトナムから安南派寺院への僧侶派遣例は見られない。

事例：安南派寺院で一時期ベトナムからの留学僧の寄宿受入例があった(2019)。

上記に概括したように、ラオスとタイにおいてベトナム仏教寺院、もしくは中国系大乘仏教寺院のあり方が大きく異なる背景として、両国における宗教-国家・社会間関係の相違があると考えられる。

ラオスでは、ベトナムに相似して信教の自由を保障しつつも、活動の自由についてはケースバイケースによる運用上の制限を受ける。主要団体たる上座部仏教系寺院組織は大衆組織として存在し公認されているものの、それ以外の宗教団体については、相互交流はあるものの、連合組織化されていないのではないと思われる。

一方、タイにおける大乘仏教2派-安南派(=ベトナム派)・中国派-は同国の公認組織であり、安南派各寺は国王の公認を示す「勅賜」を寺名に掲げている。寺院運営面でも、同国における宗教行政管理と社会規範を受けて、上座部仏教寺院の運営組織を概ね踏襲している。その一端が、比丘尼の不在や、寺院運営に際して在家信者による管理委員会が設置され、僧侶が表向きには金銭管理に直接関与しない仕組みとして現れている。仏教寺院組織の在り方の相違が、教理よりもむしろ、宗教行政的枠組み・社会慣行の差異を反映した結果となっている

と言えよう。

ラオスにおけるベトナム仏教寺院を考察するにあたり、ラオスとベトナム本国との政治的・社会的関係を相当程度考慮に入れる必要があると思われる。インドシナ連邦期以来のラオス・ベトナム間の擬似的な兄弟関係を基盤として、ベトナム本国からラオス側へ公式・非公式の働きかけが継続しており、その一環に仏教寺院や同郷会館に対する人的・資金的支援が行われている。ベトナム仏教寺院を支える信者集団たる越僑についても、戦前・戦間・戦後を通じてベトナムから移民が流入しており、1995 年 ASEAN 加盟後の更なる流入増加を受けて、同国における越僑社会は、隣国タイやほかの東南アジア諸国に先駆けて新たな段階を迎えていると推測される。

以上のように、タイとラオスにおけるベトナム仏教寺院の相違は、両国とベトナムとの国家間関係を背景とする歴史的・社会的文脈の中で理解されるべきものと考えられ。

ラオスにおけるベトナム仏教寺院については、今後のさらなる調査を必要とするものである。